

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 ロボットとAI

5 AIは道具である
メタデータ株式会社 代表取締役社長 / 理学博士
野村直之

9 技術者の現場回帰
立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授
建山和由

12 ぶら〜り首都高めぐりの旅
2号目黒線の巻

13 データ物語
スマートインフラマネジメントシステム
i-DREAMs®

14 Taste of the Season
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 BUSINESS ESSAY
弱いロボットとは何か
豊橋技術科学大学 教授
岡田美智男

20 つくる人まもる人
首都高技術株式会社
石塚尚樹

22 高速百景 中野正貴

contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 36

首都高名所案内

高速道路脇の 隠れ里

コラムニスト
泉 麻人

首都高の川口線を北上して東北自動車道に入っていく所に浦和のICがある。そのすぐ傍らにあるのが埼玉スタジアム。2002の年号が名称にも添えられているが、これはもちろんサッカー・ワールドカップの日韓大会を表わすものだ。

僕は当時、雑誌の原稿取材でここを訪れて試合を観戦している。6月4日に行われた、日本の初戦・ベルギー戦

である。あの頃のベルギーはいまほどの超強豪チームではなかったけれど、まず鈴木が足元を伸ばしてチョンと突ついたようなシュートを決め、稲本も技巧的なロングシュートをゴールに収めて、2対2のイーブン。幸先の良いスタートを切った。しかし、本編の試合よりも先に思い浮かんでくるのは、浦和美園の駅からスタジアムへ向かうまでのどかな田園風景。道すがらの

光景が当時連載していたコラム（タブロイド時評）に書かれている。

「スタジアムへは、地下鉄の南北線（埼玉高速鉄道）を使って、田園地帯のなかにぽつんとある浦和美園の駅からアプローチしたのだが、ネギ畑の脇の野良道を往く観客のほとんどは、日本チームの青いユニホームを包んでいる。そして、六十くらいの中小企業の社長風も、奥様バレーボール団なかやあってそうなる五十なかばの御婦人方も、背中にONO、NAKATA……と刻んだユニホームを着こんで、なんだか子供みたくハシヤギながら会場への道を歩いている。」

そして、この野良道の途中に出いたイギリス人がやる露店で、僕は当時CSのスカパーチャンネルで観て熱を上げていたイングランド・プレミアリーグのリバプールFCのピンバッチをゲットしたのであった。

ネギ畑の脇でイギリス人の兄ちゃんがピンバッチを売る、ああいう牧歌的な景色はもはや見られないだろう。

そう、2002年のワールドカップから10年くらい経った頃だったろうか……路線バス旅の取材で埼玉スタジアムのあたりまでやってきた。このときは場内に入ることもなく、次に乗るバ

スの停留所に行く途中、ちょっと寄り道したという感じだった。携帯してきた地図のコピー（まだスマホではなかった）を眺めつつ、スタジアム脇の草深い崖道を下っていくと、その奥には雑木林に取り囲まれた昔ながらの農家集落が残っていて、くねくねした路地を歩いているうち道に迷った。

地図と路端の番地とを照らし合わせながら歩いていくと、やがて広々とした高速道路に行きあたった。東北自動車道だ。フェンスの隙き間から覗くと、すぐ向こうに浦和の料金所が見える。ようやく架橋を見つけて、目当てのバス停がある向こう側のエリアに渡った。

南部領辻なんぶのりょうづじという古い集落名を残した停留所からバスに乗って、北方の低地に広がる見沼田んぼの一角をめざす旅だった。埼玉スタジアムのサッカー中継を観戦するたび、あの隠れ里めいた集落はまだ健在だろうか、と思う。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『東京23区外さんぽ』（平凡社）がある。